

はじめに

わたし たまきまつ おきょうじゆ であ ハンズ プロジェクトの だいいっかい たげんご
私と田巻松雄教授との出会いはHANDSプロジェクトの第一回「多言語
による高校進学ガイダンス」(平成22年10月24日開催)の通訳・翻訳依頼でし
た。

それまで私 は法廷通訳をしながら 真岡市と 小山市で 日系南米人向けの
日本語教室の通訳を勤めており、経済的事情で振り回される外国人の子ども
達を目の当たりにしておりました。

親の金銭的な事情で海を渡って連れて来られ、いきなり異国での学校とな
ると、環境の適応すら難しいのに勉強についていけなくなるというのは想
像に難しくありません。

日系家庭で育った子どもは日本語の会話は理解出来たとしても、自分で
日本語の表現をすると限界が生じます。国語あつての数学や理科な
ので片言の会話で数学や理科の文章問題を解くのは更に困難になります。中
には自分が何を理解できないのかすら伝えられない子もでてきます。日本語
教室では授業時間が短いので基本的な会話の手助けは出来たとしても、
数学や理科の学習指導には手が回らないのが現状です。

そんな中、前年度作成されたスペイン語版を見て感銘を受けました。その
辞書は学校科目で必要な細かい名称が書かれているので、各科目の大きな手
助けになる筈です。ポルトガル語の辞書も増えています。希少言語の為、学校
教育に着目した辞書を見つけることは困難ですから、ポルトガル語版もあ
れば画期的なものだと思いました。そして、スペイン語と同じように、
ポルトガル語版を作成して欲しいと言われ、私は戸惑いました。

私は一歳半でブラジルへ行って10年間暮らしましたが、帰国後は大学ま
では全て日本で過ごしました。ブラジルでは現地の小学校しか出ていないの
で、翻訳となると荷が重過ぎると感じて一旦はお断りしました。しかし辞書

作成には日本語の細かい理解が必要だと言われました。私は日本語代表で基本的な翻訳をし、分からないところはポルトガル語代表と協力して作成して欲しいといわれ、最終的にはポルトガル語の高度な専門家がチェックをしてくださるといことで安心してお引き受けさせて頂く運びとなりました。

翻訳は三つに分け、終了した後は各自の翻訳をそれぞれに渡し、後日回か翻訳会議を開いて見直しをしました。日本語代表がその言葉を説明し、ポルトガル語代表にその言葉をいかに自然に表現してもらい、子どもの目線で理解してもらえるように配慮して作成しました。表紙の絵についても、子どもが辞書を見た時に意欲的に勉学に励んでもらえるよう相談して決めました。

こうやって本書の発刊に際しては、ポルトガル語翻訳協力者の植田エレニセさん、稲場マルシアさん、そして児玉しずえさん、また、別冊に関してはグラフィックデザイナーの方々の多大なご協力を頂きました。ここに改めて御礼申し上げます。

子どもが「わかる」事を目標にしていますが、時事問題にも対応可能な様に幼稚過ぎることはないようにしてあります。ポルトガル語を使用する子どもとご家族や指導者・支援者に本書が有効であり、学校生活がより有意義になることを心から願っております。

この辞書は、新聞や自然科学を読む時にも役立てることが出来るので、一生ものだと思っで大事に使って頂けたら幸いです。

平成24年12月

翻訳協力者を代表して

福田 千恵子